資料3

第93回審議会（平成30年4月13日）における主な意見について

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

第93回審議会（平成30年4月13日）における主な意見について

国土交通省

【土地】
○　平地が少ないので、官公庁の庁舎建て替えがあった場合には村全体で活用を検討してほしい。

【交通施設】
○　航空路の開設に当たっては、自然環境への影響、費用対効果、採算等の課題について調査検討を進めることが必要であるが、この後に特別な支援の必要もある等の文言を入れていただきたい。

【住宅施策】
○　住宅がないので住宅が高くなってしまう。移住された方も含めて生活するに当たって、ちゃんと賃料を払える分だけの収入を得られるのかが重要な問題。そういった意味で全体のGDPを挙げていくことが重要。
○　定住促進のためには、雇用と住宅の確保が極めて重要。Uターン、Iターン、旧島民の帰島希望の方々のために、公営住宅の建て替えの際の増設や入居基準の見直しが必要。

【観光】
○　エコツーリズムへの理解が高く長期滞在で客単価も高い欧米豪の個人客等、誘致する観光客のターゲットを明確に絞り、外国人観光客を受け入れていく方向を検討してはどうか。
○　ガイド業だけで生計を立てられるように、観光客が払ったお金が様々な形で還元されて、地域の環境保全に役立つような仕組みが明確になるような形での集客ができないか。
○　近年、観光客が増えると1人当たりの消費額が減って、観光客が減ると1人当たりが増えている。観光で消費できるものの供給量が決まっているのではないか。インバウンドで観光客が増えても提供するものがないのではないか。
○　少量多品目を生かし、そこに行かなければ食べられないということを観光と組み合わせ、インバウンドニーズと新しい商品のニーズをマッチングさせるということが今後は必要である。

【振興開発】
○　全体のGDPを上げていくことが重要。漁獲高は横ばいだが、漁獲金額が増加していたり、１人当たり観光客消費額がこの数年で大きく増加したりしている。この要因が今後重要になってくると思う。
○　村が考える将来ビジョンに向けて、実際そこに住んでいる人がどう考えて、何を具体的に行動していくかが重要。

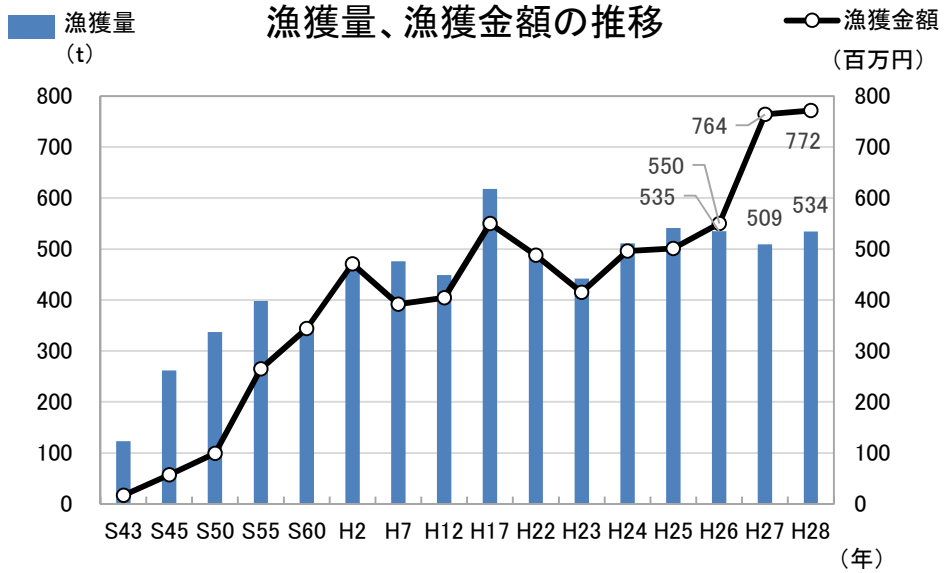
産業（漁業）

国土交通省

○　漁獲量の約4割をカジキ類が占め、次いでハマダイ、マグロ類で全体の約7割を占めている。

○　平成26年から平成27年にかけて、漁獲量は減少（26t減、4.9%減）した一方、漁獲金額は増加（214百万円増、38.9%増）した。これは、取引価格が高いサンゴ漁業の操業が活発であったことが要因であり、平成28年度においても同じ傾向がみられた。

漁獲量、漁獲金額の推移

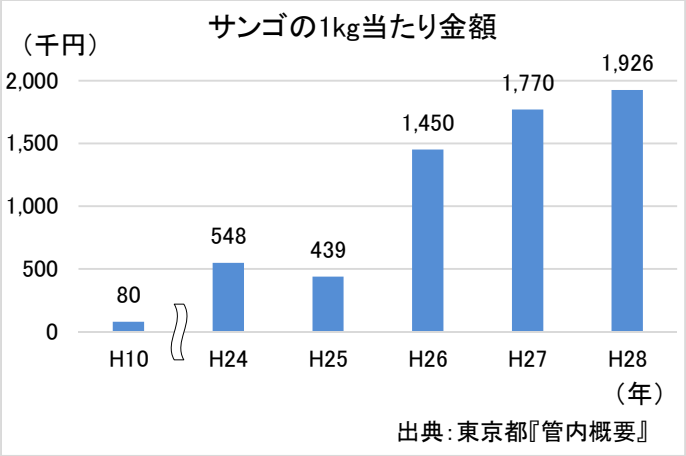


出典：東京都『管内概要』

魚種ごとの漁獲量及び漁獲金額（漁獲金額順）

区分	H26	H27	H28
1	カジキ類　（233t、199百万円）	カジキ類　（219t、223百万円）	カジキ類　（198t、219百万円）
2	ハマダイ　（110t、125百万円）	サンゴ　（0.12t、214百万円）	サンゴ　（0.10t、189百万円）
3	マグロ類　（70t、60百万円）	ハマダイ　（76t、106百万円）	ハマダイ　（93t、125百万円）
4	サンゴ　（0.04t、55百万円）	マグロ類　（78t、95百万円）	マグロ類　（67t、80百万円）
5	その他　（122t、111百万円）	その他　（136t、126百万円）	その他　（176t、159百万円）
	計　（535t、550百万円）	計　（509t、764百万円）	計　（534t、772百万円）

※漁獲金額50百万未満の魚種は「その他」とした。　　出典：東京都『管内概要』



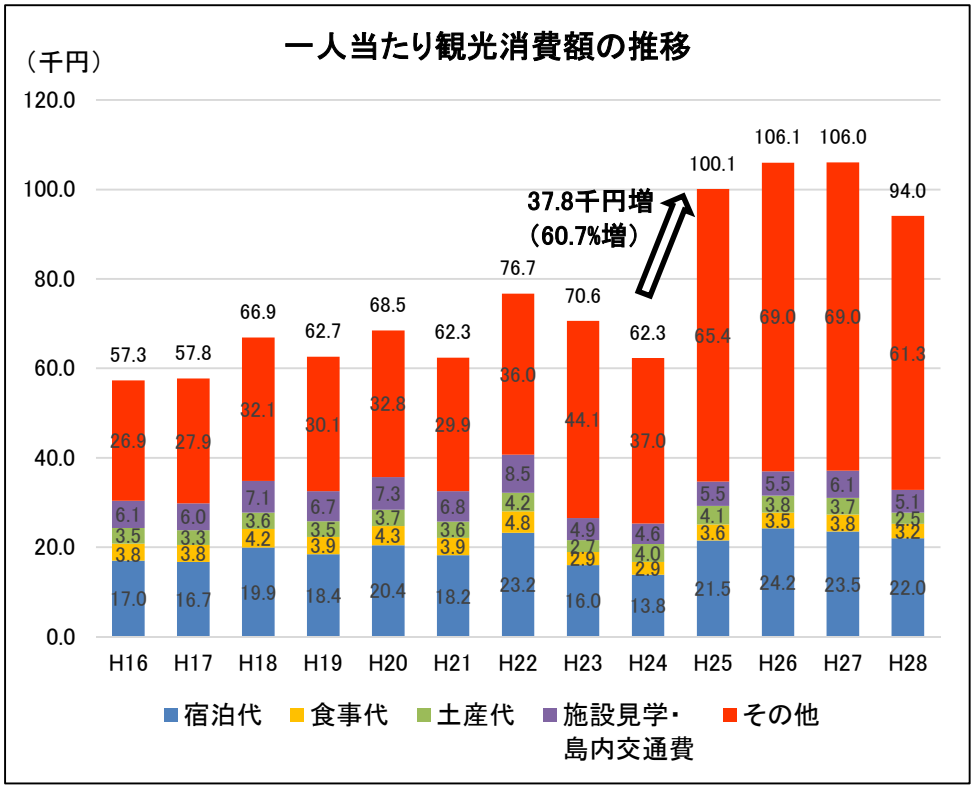
出典：東京都『管内概要』

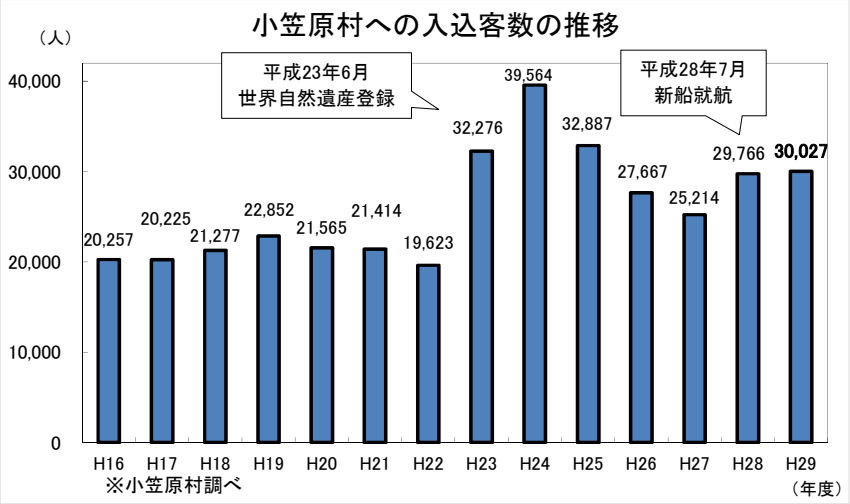
観光①

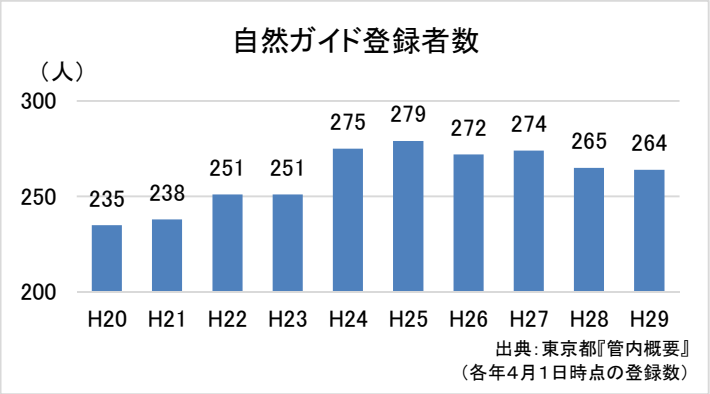
国土交通省

○　一人当たり観光客消費額は、平成24年から平成25年にかけて37.8千円増（60.7%増）となり、その後も高い水準で推移している。

○　消費額の内訳を見ると「その他」が大きく増加しており、増加した要因として、エコツアー利用客の増加が考えられる。







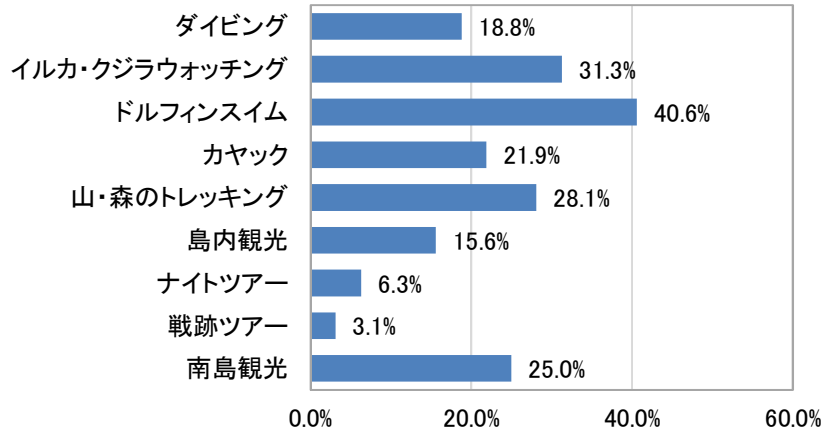
観光②

国土交通省

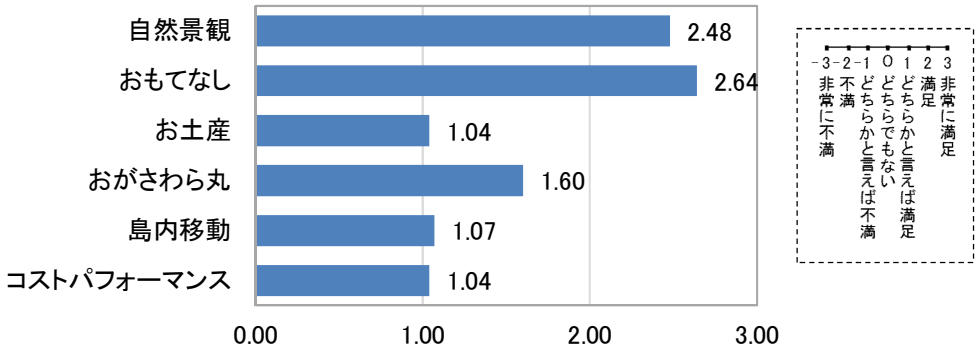
○　外国人観光客のガイドツアーへの参加率を見ると、「ドルフィンスイム」が最も高く、次いで「イルカ・クジラウォッチング」が高くなっている。

○　外国人観光客の項目別満足度を見ると、「おもてなし」が最も高く、次いで「自然景観」が高くなっている。

外国人観光客のツアー参加率



外国人観光客の項目別満足度



※小笠原村調べ

【小笠原で体験できるツアー】

○森・山のガイド

ガイドといっしょに森を歩きながら、小笠原にしか生息していない動植物を観察するツアー

（1日コース　8,000円～10,000円）

（半日コース　4,000円～6,000円）

○戦跡ツアー

日本軍が築いた防空壕や大砲などの戦跡をめぐりながら、平和の大切さについて考えるツアー

（1日コース　8,000円～9,000円）

（半日コース　4,500円～6,000円）

○歴史・自然・文化探訪ツアー

本土から遠く離れた小笠原。誰がこの島々を発見したのか？そして何故、この島に人が住むようになったのか？小笠原の歴史、その謎をひも解くツアー

（1日コース　8,000円～9,000円）

（半日コース　3,500円～5,000円）

環境保全

国土交通省

○　外来生物による希少種への影響が深刻化。世界遺産登録時のユネスコ世界遺産委員会からの勧告も踏まえて、外来生物対策と希少種の保全対策を推進。

小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議「小笠原諸島世界自然遺産に関する基礎資料集（平成29年度版）」より

陸産貝類の保全

世界遺産としての顕著で普遍的価値を構成する最も重要な要素の一つ

▸外来ネズミによる食害（兄島）

⇒殺鼠剤の空中散布やベイトステーションによる対策

外来ネズミに食害されたカタツムリの殻

▸プラナリアによる食害（父島）

⇒侵入防止柵・エリア防除柵の設置や個体を緊急捕獲し、飼育繁殖を実施

ニューギニアヤリガタリクウズムシ

▸ツヤオオズアリによる食害（母島）

⇒防除ラインの設置やアリ駆除剤による駆除を実施

在来のアリを捕食するツヤオオズアリ

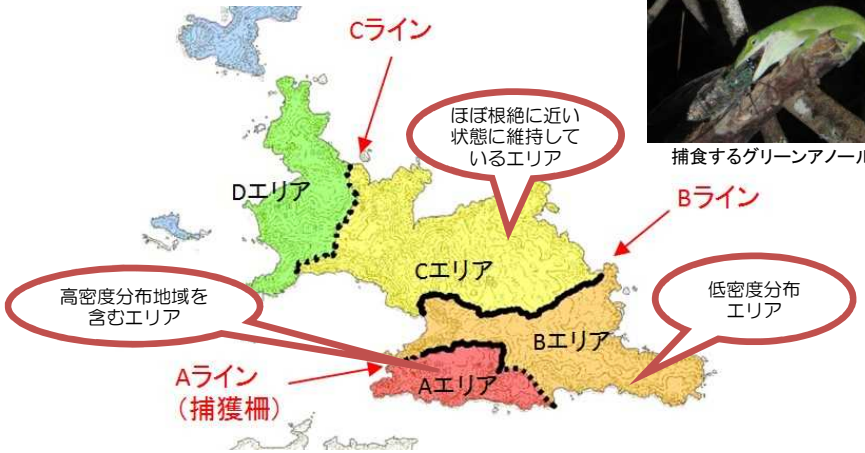
グリーンアノール対策

外来生物法に基づく特定外来生物に指定
捕食により生態系に大きな影響を与えている

▸父島と母島には、グリーンアノールが数百万匹の単位で定着。

▸兄島では、平成25年3月に初めてグリーンアノールの生息が確認。兄島は、世界自然遺産の核心となる地域の一つであり、生態系を保全するための緊急対策を進めている。

捕食するグリーンアノール



兄島におけるグリーンアノールの分布と長距離遮断柵（各ライン）の位置

環境保全に係る普及啓発の取組

国土交通省

1　村民向け現地視察会の開催

・小笠原の自然に対する村民の興味を深めてもらい、また村民と世界遺産の課題を共有し、地域と連携した世界遺産の保全の取組を進めることを目的として、平成25年度から継続して開催。

・兄島では、実際に陸産貝類・水生生物・昆虫等の保全対象や、対策の現場を体感してもらうプログラムを実施。

兄島視察会の様子

2　村民向け講演会の実施

世界自然遺産の価値である独自の生態系や生き物、それらを保全する取組についての村民理解を促進することを目的に座談会や講演会、交流会を実施。

世界遺産勉強会（父島）の様子

3　観光客向け普及啓発の取組

・小笠原ルールブックの配付（平成30年度にルールブック簡易版作成予定）。

・おがさわら丸船内での自然保護等に関するレクチャーやパネル展示

船内レクチャーの様子

4　環境教育に関する取組（各機関）

・学校教育との連携

・社会人を対象とした取組

・島外からの学生を対象とした取組

小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議「小笠原諸島世界自然遺産に関する基礎資料集（平成29年度版）」より一部抜粋